

大麦栽培管理情報（第1号）

令和元年9月20日
アルプス農協管内農業技術者協議会

高品質麦の安定生産には、発芽・苗立ちを良くし、初期生育を確保することが重要です。

①排水対策、②土壌改良、③適正播種及び④播種後の適正管理により、高品質なアルプス大麦の安定生産につなげましょう。

スタート
が大事！



① 排水対策

・大麦は生育期間を通して湿害に弱いため、排水対策の良し悪しが、その後の生育に大きく影響します。稲刈後、早期に排水対策（図1参照）を実施し、速やかに圃場を乾かしましょう。

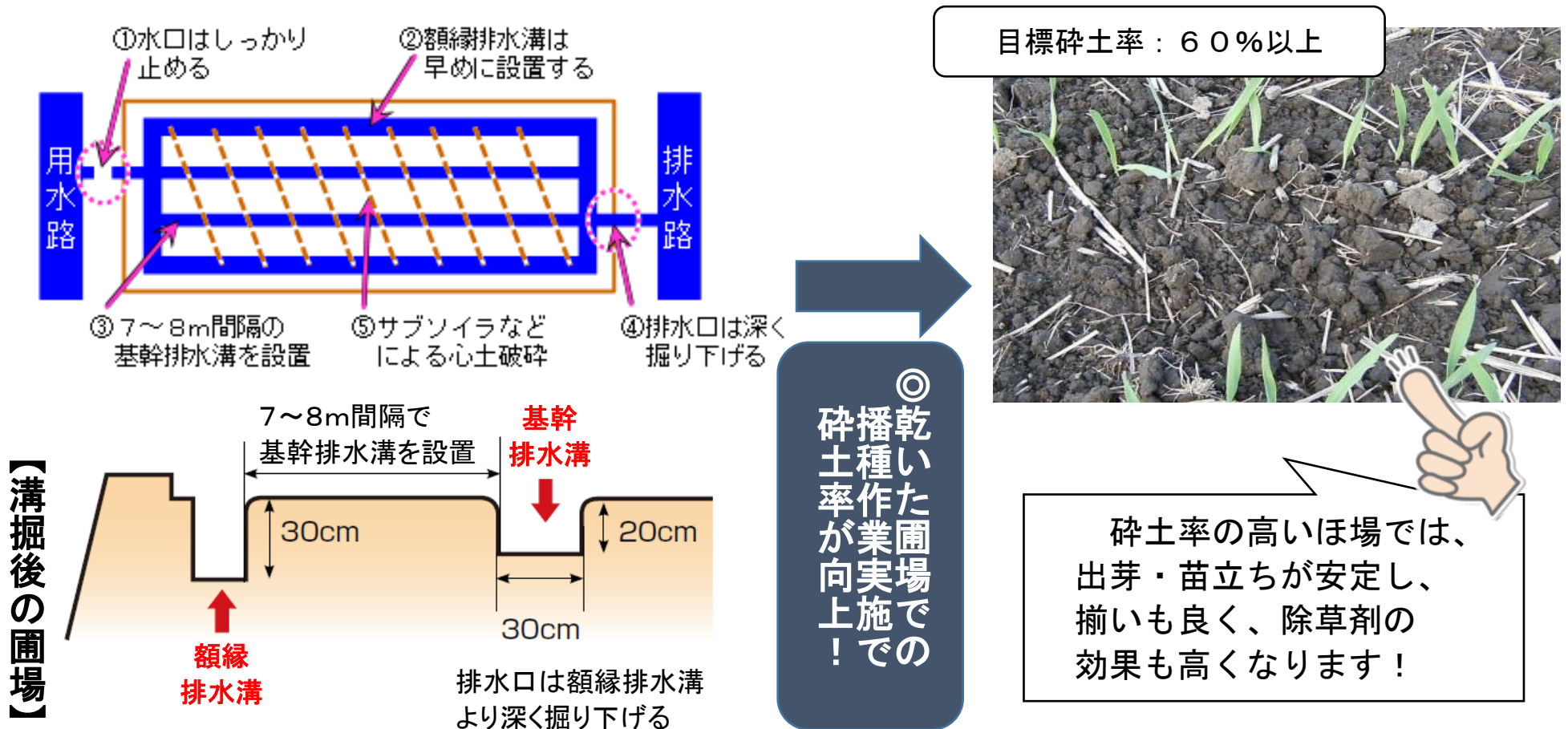


図1 排水対策

② 土壌改良

・大麦は、酸性土壌では生育不良となるため、pH6.0以上を目標に、確実にアルカリ資材を施用しましょう。また、積極的に堆肥等有機物を施用しましょう（表1）。

表1 土壌改良資材

資材名	時期	10a 当たり施用量
粒状貝化石	耕起前	150~200kg
発酵けいふん		沖積土壌 150kg 洪積土壌 100kg

③ 適正播種

(1) 種子消毒

・種子更新を徹底するとともに、病害の発生を防止するため、必ず種子消毒を実施しましょう（表2）。

表2 種子消毒

消毒方法	処理方法
薬剤処理	乾燥種子 10kg 当たり ベンレート Tコート 50g を均一に粉衣
循環式催芽器による温湯浸法	45℃の温湯に入れ、2時間半浸漬 (浸漬時間厳守)

(2) 耕起～播種

! 大麦の播種適期は、10月上旬です。9月6半旬から計画的に行い、遅くとも10月中旬までを目途に播き終わらしましょう。

- ・耕起作業は、土の乾きを確認してから実施するとともに、耕起～播種・作溝までの一連の作業を1日で行いましょう。
- ・畦幅は3m以内とし、幅が30cm、深さが20cm以上のしっかりした溝を設置するとともに、排水口に確実に連結しましょう。
- ・ドリル播きは、深さ3cm程度を目安に播種しましょう。播き始めに播種深度が3cm程度になっているか確認してください。
- ・播種時期や方法に応じた、適正な播種量を厳守してください（表3）。
- ・基肥施用は基準量を目安とし、地力に応じて調整しましょう（表4）。

表3 播種時期・方法別播種量

播種時期	目標苗立数 (㎡当たり)	播種量の目安 (10a 当たり)	
		ドリル播	表面散播
9/26～30	140本	6.0kg	6.5kg
10/上旬	150本	6.5kg	7.0kg
(10/中旬)	(200本)	(8.5kg)	(9.0kg)

表4 基肥施用の目安

施用体系	資材名	10a当たり施用量	備考
一発	LP大麦48号	45kg	原則、追肥は不要
分施	ハイマックス燐加安 444	40kg	

④ 播種後の適正管理

(1) 雑草防除対策

- ・播種後速やかに除草剤を散布し、肥料成分が雑草に奪われるのを防ぎましょう。
- ・**※ただし、表面散播した圃場では使用しない!**
- ・圃場条件に応じた除草体系を選んで実施してください（表5）。

<使用有>



<使用無>



写真 除草剤使用の有無による雑草発生状況

表5 圃場条件別除草剤例

No.	圃場条件等	除草剤名	適用雑草	使用時期	10a当たり使用量	使用方法
I	一般的な防除	ボクサー	一年生雑草	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～雑草発生始期)	500ml (希釈水量100ℓ)	土壌 表面 散布
II	雑草が少ない圃場	トレファノサイド乳剤	一年生雑草 (ツユクサ、カヤツグサ、 キク、アブラナ科を除く)	播種後出芽前 (雑草発生前)	300ml (希釈水量100ℓ)	
		トレファノサイド粒剤2.5		播種後出芽前	4～5kg	
III	カラスノエンドウが多い圃場※	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～ イネ科雑草1葉期まで)	60～80ml (希釈水量100ℓ)	
		リベレーターG			4～5kg	

※Ⅲの場合、「アクチノール乳剤」(播種後30～45日頃に茎葉散布)との体系防除とする。

除草剤使用上の注意点

- ・土壌が極端に乾いていると効果が劣るので土壌水分が適正な時に散布する。
- ・散布直後に大雨にあうと薬害のおそれがあるので、天候を見極めて散布する。
- ・種子が露出していると薬害のおそれがあるので、碎土率を高めるとともに、播種深度3cm程度を目安に、確実に覆土するよう注意する。

(2) 排水溝の連結点検

- ・播種作業後には排水溝の手直しを行い、湿害防止に努めましょう。

播種後排水溝の手直し中。
このひと手間が
高品質麦生産への近道!

